

た人はミュンスターに住んでいませんので、そういう自転車がいる、専用があるとかがい
の知らないので、それで事故というのが起きてしまうことがあります。

○水谷議員 先ほども、信号できちっととまられてるから、びっくりしたんですよ。日本は歩
行者と自転車が混在して走っています。だから、それでも事故が多いというお話があったん
ですが、今、よその人が来たりということ。

○説明者 そうですね、ミュンスターの外のまちの人ですね、ミュンスターの近くの人でもわ
からないですから、そういう普通のまちには、自転車と一緒に共存してるところはないので、
そういうところで事故があったり。

○水谷議員 スピードか、それとも飲酒とか、そういうことで事故が起きるんですか。

○説明者 お酒を飲んでいたりとか、余り速く運転しててというよりは、外部から来た車との接
触や、もう一つとしましては、自転車に乗ってる人がちょっといけないんだけど、とにかく
早く目的地に行きたいということで、法的にはいけないような場所を勝手に、歩行者だけし
か通ってはいけないところを自転車で通ったりとかして、事故になったりする。

○池田議員 お城の周りの石畳はだめなんですか。

○説明者 大丈夫ですよ、右側通行で、自転車も徒歩も大丈夫です。

○西議員 先ほどおっしゃっていた、乗りたくなるような方向へ持っていった、それは一体何
をしたんですか。

○説明者 それは、あしたの担当のゲットラーさんが自転車政策についてはもっと詳しく話す
と思いますが、もちろんインフラ整備ですね、あとまた学生のまちということで、教養があ
るということで、そういうことも関連して、自転車に乗った方がいいというような考えを持
ってる人が多いからじゃないのでしょうか。少し、周りに環境のことを考えたりする人が多
いというものもあるんじゃないかと言ってますが、自転車政策の方はあしたの方が担当ですの
で。

○西議員 いや、そうしたくなるかという方法、ほかの分野でも。自転車以外でも、なぜそ
うしたくなるかという、誘導していくために何を行ったかということをご教えてください。

○説明者 1948年に自転車法というものをまずつくりました。

あと、ほかのまちでは一方通行のところは、自転車も車と同じように一方通行で、普通は
逆方向からは入れないんですけど、ミュンスターはそれを廃止しまして、自転車も入れる、
車は一方通行ですけど、自転車と徒歩の方は入れるというような規則をつくりました。

インフラ整備という形で、駅の前に大きな駐輪場をつくりまして、通勤者が自転車からま
た電車で仕事に行けるという、行きやすくなるような駐輪場をつくりました。

(ビデオ上映)

○説明者 質問等がありましたら。

○土師議員 これだけのことをしようと思ったら、市長の強いリーダーシップと、それから安定政権ですよね、これがなかったら難しいと思いますが、どうなのでしょう。

○説明者 市長は特別にリーダーシップがあるというわけじゃなくて、市民の1人の代表として、そういうスポークスパーソンということで、そういう強いリーダーシップというわけではないです。まちのすべての市民、皆さんが計画していくというのがミュンスターです。

○池田議員 この市の財政状態、おわかりになるかどうかわかりませんが、それで、多くの市はきのうのエッセンスでもそうですけれど、企業誘致を積極的にするということが、それはどうなんですか。

○説明者 もちろん借金とかはあるんですけども、ノルトライン・ヴェストファーレン州の中では3番目に財政状態はよいまちです。

ミュンスターとしては、産業としては、小さなまちで工業には余り期待できないんです。どちらかというと銀行、郵便局、駅、鉄道関係の仕事がたくさんあったんですけども、近代化によりまして、それがセントラル化されまして大きなまちに移ってしまったわけです。それで、新しくそういう仕事がたくさんなくなってきたので、これからの課題としては、それにかわるような新しい仕事場をつくっていくというのが課題です。

それで、そういう銀行、郵便局の社員が削減されたんですけども、そういう人たちのために、その専門のアドバイザーの会社をつくっていくようにというような推奨をしています。それで、500の中小の銀行関係の財産関係のアドバイスの会社ことができました。ミュンスターとしましては、やはり教育面に力を入れて、そういう教育での仕事をふやしていくというのが計画としてはあります。

ミュンスターには余り工業がないと言ったんですけども、BSFといいまして、車の塗装の会社がありまして、それに力を入れています。大学とBSF、塗装工業との共同によりまして、もっとたくさんの新しい仕事をつくっていくように思っております。

あとは医学ですね、医療系の仕事をつくっていく。あと、2番目としましては、医療関係の仕事をふやしていくことです。ミュンスターには有名な大学病院がありますし、いろんな医療研究所があります。

ナノバイオロジーの研究、ナノの研究の関係の仕事をふやしていくということです。要するに、すべてミュンスターはそういう工業ではなく、教育関係の仕事をふやしていく、力を入れていく、教育、科学ですね。

GPSシステムとかご存じですか、車の。その開発ですね、コンピューターの専門家によりましてGPSシステムの改善、そういうような研究に関する仕事をしていく。

ミュンスターは中小企業がほとんどなので、その中小企業のためのコンサルタント企業をまた推奨していく、そういうふうな会社を始める方への。

○池田議員 さっきの科学とか、そういう分野に関して、大学との連携はやっぱりありますか。

○説明者 それは先ほど、一番最初に言ったように、例えばBSF塗装工業と大学との提携で新しい研究、学生の卒業後の仕事をつくっていくということです。

もともとはミュンスターというのも行政、要するに市役所関係ですね、そういうような場所のまちでした。でも、これからはもう少しそういうような民間の企業を、民間の仕事をふやしていくのが今後の目標です。

もちろん、ミュンスターは財政にはいつも気をつけないといけないんですけども、ノルトライン・ヴェストファーレン州の中では、とてもうまくいってます。

現在ある70%の、そういう工業、今のを保つのと、また、新しい外部からの企業例えば、そういうシマノさんですとかが仕事をしたがるようなまちにしていくというのは、計画としてはあります。

○中井議員 まち全体は非常に広いんですが、旧市街の利用といいますのは、アパートであったり、あるいはオフィスビルというのが中心ですか。

○説明者 市の中心地、旧市街地では8,132人の人が生活しております。

今後は、ミュンスターのトレンドとしましては、もっとミュンスターの人が外から、まちの中に戻っていく、まちの中で生活していくというような兆候があるということです。

普通の、ほかの大きなまちとかでしたら、中心地はもうほとんどビジネス街で、夜になるとだれも住んでなくて、真っ暗になっていきます。ミュンスターの場合は、傾向としましては、外に外に動くのではなく、外に住んでる人が旧市街地、真ん中に、中に生活していこうというような傾向になっているということです。

○中井議員 州で3番目の財政の豊かなまちであると聞きましたが、財政の、大枠で結構でございまして、どういうふうな種類の収入が大きなものとしてあるんですか。歳入の中身ですね。大きなものはどんなものがあるのか。エッセンでは市民税がないと聞きましたので。

○説明者 ちょうど見せられるデータがありますので、今お見せします。

これはミュンスターの財政ですね。

ミュンスターの財政はいいので、ノルトライン・ヴェストファーレン州からは基本的には出ません。ただ、ノルトライン・ヴェストファーレン州からインフラ整備等のお金は入ってきます。それは別ですね。要するに、インフラ整備のお金はもちろん入ってきます。

これは市役所関係で働いている人たちの人件費です。

○中井議員 1億1200万ユーロというのが。

○説明者 4,000人の職員さんがいます。

○中井議員 4億1700万ユーロの収入は何のお金ですか。

○説明者 それは税金ですね。

○中井議員 何の税金ですか。

- 説明者 すべての税金です。一人一人、市民の払っている税金のすべてです。
- 西議員 では、最後の質問で、この最初の話に戻りますけれども、このミュンスターに来させていただいたのは、環境首都ということが大きな理由です。先ほどおっしゃられたように、CO₂を減らしているということで、環境首都を受賞されたということをお聞きしてはいますが、そのCO₂を減らすための施策としては、石炭発電をガス発電にすること。あと、自転車を普及をする。ほかに何が評価をされてCO₂が減ってる環境首都になったのでしょうか。
- 説明者 一番大きいのは、やはりガス発電所になったということです。CO₂が8%、ガス発電所によりまして減ったそうです。あと、古い建物の改修作業ですね、古い建物をエネルギーが外に出ないようにつくりにしていくような支援のお金とかも払って。
- 西議員 ほかに何かメニューでありますか。項目でぜひ教えてください。
- 説明者 たくさんの項目がありまして、まずガス発電所のほかにも古い建物の改修を進めていくというのと、ソーラーパネルなどの、そういうオルタナティブなエネルギーを使うということと、あとまた交通を自転車や徒歩が使いやすいようにして、車の利用を減らすような方向に持っていくというようなインフラ整備です。数多くあります。
- 水谷議員 どうもありがとうございました。